

サポート

No. 156

平成30年11月1日発行

秋田県教育庁特別支援教育課 指導班

第47回 特別支援学校「学校展」

9月29日（土）、30日（日）の2日間、秋田市にぎわい交流館AUを会場に、秋田県特別支援学校「学校展」が開催されました。

今年度も、各校の特色ある学習活動の様子を紹介したパネル展示やビデオ放映、魅力あふれる子どもたちの作品の展示を中心に、作業学習製品の販売や喫茶コーナー、点字や手話の体験コーナーを行いました。台風の影響が心配される中での開催ではありましたが、会場は多くの人で賑わいました。

この学校展は、県高等学校長協会特別支援学校部会と県特別支援学校PTA連合会が共催で毎年開催しており、今年で47回目となりました。来場者の中には、各校の展示はもちろん、販売や喫茶コーナーでの生徒とのふれあいを毎年楽しみにしているとお話くださった方、2日間とも足を運んでくださった方もいました。

今回、販売や喫茶コーナーへは4校から参加がありました。1日目は栗田支援学校、天王みどり学園、附属特別支援学校、2日目は稲川支援学校が出店しました。各校の生徒の生き生きとした接客に、会場内は活気にあふれ、お客さんにも笑顔が広がりました。子どもたちの一生懸命な呼び掛けや対応に感銘を受けたと話し、会場を後にされる方もいました。子どもたちの日頃の取組の様子やその成果を来場者が十分に実感できる機会になったと感じています。

体験コーナーでは、視覚支援学校による点字体験と聴覚支援学校による手話体験を行いました。体験コーナーを目的に来場された方や小さなお子さんの参加もあり、担当職員によるジェスチャーゲームに、はりきって答える姿が見られました。

学校展を通して、来場者からは「各校の様子を知ることができて良かった。とても身近に感じた。」「素敵な作品がたくさんあって感動した。」「生徒の頑張りが際立っていた。」「地域の方々に理解が深まることを切に願いたい。」などの感想が寄せられました。一般の方々に本県特別支援教育について知っていただく良い機会になり、こうした機会の積み重ねが、理解啓発につながっていくものと実感しました。

【主管校 聴覚支援学校 教諭 高橋亜希子】



【展示会場】

各校で創意工夫し、普段の取組を分かりやすくまとめていました。



【販売コーナー】

ジャムや木工製品、陶器などの販売で、活気にあふれていました。



【手話体験】

ゲームを交えた体験に楽しんで参加する様子が見られました。

訪問教育担当者研修

特別支援教育課では、訪問教育担当教員としての指導力の向上を図ることを目的とし、初めて訪問教育を担当する教員を主対象とした訪問教員担当研修会を、年2回開催しています。今年度の後期の研修会では、県立秋田きらり支援学校の二階堂悟教育専門監による講義・演習「重度・重複障害児の自立活動～発達の理解に基づいた指導と評価～」と、「後期の個別の指導計画の作成～前期の指導の評価・改善～」をテーマとしたグループ別協議を行いました。日頃は、実態把握や目標設定等に不安を抱えている参加者ですが、講義・演習でICFの視点やキャリア教育の視点の重要性を学んだことにより、協議では、事例に対する具体的な改善策を出し合い、実践への意欲を高め合って研修を終えることができました。

今年度は、県内の特別支援学校7校（分校、分教室含む）で、34名の児童生徒が自宅や病院での訪問教育を受けています。2回の研修が授業づくりのヒントとなり、更に、複数の教員で訪問教育の指導内容や方法を検討する体制が整備されることにより、訪問教育が一層充実することを期待しています。



講義・演習の様子



今を俯瞰して

岩手県立盛岡みたけ支援学校
教諭 飯塚 正純

私は現在、岩手県盛岡市にある盛岡みたけ支援学校に勤務しています。盛岡市は私の出身地である仙北市から車で約1時間のところに位置し、買い物などで頻りに訪れていたことから、馴染みの深い場所でもありました。そんな盛岡市、岩手県ではありますが、特別支援学校の現場においては、秋田県との相違点が山ほどありました。大きな部分では、岩手県には高等支援学校や私立の特別支援学校があるほか、県内各地の小中学校、高等学校内に特別支援学校の分教室が多数設置されています。また、校内ネットワークを活用し、様々な連絡が掲示板や一斉メール配信で行われ、会議もパソコン画面で資料を開きながらペーパーレスで行われています。今ではだいぶ慣れましたが、起案や事務処理の仕方なども根本的に異なることが多く、戸惑いの連続でした。

しかし、最近改めて実感するのは、学校運営の仕組みや職務遂行上の手続きの違いはあっても、子どもたちと共に過ごす日々の楽しさやこの仕事のやりがいは、秋田県であろうと岩手県であろうと変わらないということです。7月には担当する高等部2年生を対象に秋田県に関する学習や秋田弁講座を授業で行い、宿泊学習で生徒たちと仙北市を訪れました。現地で「すったげおもしゃー。」と連呼していた生徒たちの嬉々とした姿を、秋田県で担任してきた子どもたち同様に一生忘れることはないと思います。

岩手県での勤務も残り少なくなりましたが、携わる生徒たちや現任校のためにできることを全力でやり遂げ、胸を張って秋田県に戻れるように頑張りたいと思います。



【宿泊学習】
角館駅にて



【宿泊学習】
あきた芸術村での
ダンスワークショップ